

(1) the persistent leaf-lobes, (2) the thin cell-walls of leaf-lobes with minute trigones, (3) the subquadrate to subrhombic leaf-lobules, and (4) the bases of leaf-lobules covering about 1/10 of the stem-width.

The present species belongs to sect. Caducae Schust. ex Yamada et Piippo.

I wish to express my sincere thanks to Mr. Alfrons Schäfer-Verwimp, and Dr. G. A. M. Scott of Queen's college, University of Melbourne, for the loan of *Radula* specimens. Thanks are also due to Dr. S. Hattori of the Hattori Botanical Laboratory and Dr. H. Inoue of National Science Museum, Tokyo, for their kind critical advice.

* * * *

最近、オーストラリア(クインズランド)とブラジルで採集されたケビラゴケ属(苔類)の標本を研究する機会を持ったが、2種の新種を見いだしたので記載を行った。オーストラリア産の *Radula squarrosa* は、*R. iwatsukii* に近縁の種であるが、後者は常に葉(上片)が squarrose しないこと、細胞のトリゴンが著しく厚膜状に肥厚する点で容易に識別することができる。*Radula squarrosa* には、amentulose branches がみられるため Sect. Amentulosae に所属させた。ブラジル産の *Radula schaefer-verwimpii* はキューバから記載された *R. tenuis* に近い種であるが、後者は葉(上片)がキール付近から裂けて脱落しないこと、細胞壁が薄くトリゴンが小さいこと、葉下片の基部が茎の約1/10ほどしかおおわないことで識別できる。本種には葉(上片)が茎から脱落する生理的性質が顕著に見られるので、Sect. Caducae へ配置した。

□Rix, M. & W. T. Stearn (text): **Redouté's fairest flowers** 312 pp., 114 pls. The Herbert Press, London. £19.95. 本書は Redouté が1827-33年に出版した *Choix des plus belles fleurs* の図版を複製し、それに Rix と Stearn が書いた解説を加えたものである。巻頭に Stearn による12ページわたる Redouté についての解説がある。Redouté の名はわが国でも有名で、伝記も出版されているが、Stearn によるそれはこれまで日本で紹介されていないことにもかなり言及されていて植物学史的には重要である。図版は再同定されているが、これはたいへんな作業であったと思われる。日本でも Redouté の図譜はいくつか複製されているが、それらに較べれば本書は安価であり、印刷の仕上りにも遜色がない。

(大場秀章)